

今日、8月15日は、全国的に雨となりました。明治維新後の富国強兵・殖産興業のかけ声と共に、近代化を急いだ日本は、1945年、大きな社会転換を余儀なくされました。今日この日の雨、いや記録的な豪雨は、戦後のレジーム、経済成長政策と日米安保政策の転換、日本の社会転換の必要性を「気候危機」と「コロナ禍」という中にある日本社会に示しているのではないかと思います。

第2次世界大戦の敗戦の日から76年の月日がたちました。若くして亡くなった皆さんは、生きていれば卒寿を迎え、もうすぐ白寿を迎える。そんな年月なのです。その年月に、あなたは何をなしたのでしょうか、そして、どれだけの命が、あなたとつながったのでしょうか。生きて敗戦を迎えることを、そのことを想像することは、許されないのでしょうか。

8月15日、今日この日、戦闘員、非戦闘員を問わず、第2次世界大戦で亡くなった約310万人の、すべての犠牲者の失った人生に思いを寄せ、その無念を感じ取る日でなくてはなりません。

太平洋戦争の末期、1945年3月26日、激戦地沖縄に近い、本州最南端の鹿児島県の知覧基地から、四機の戦闘機が沖縄を目指して出撃しました。それから7月19日まで、毎日のように、決して帰ることのない出撃が繰り返され、439人が陸軍特攻隊員として命を失いました。残された多くの遺書には、国体に殉じるとする、勇ましい力強い言葉が並びます。

「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ 以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」との教育勅語を思い起こします。多くの人が、その清々しい潔さに、自己犠牲をいとわない大義に殉じる思いに、共感するのかもしれませんが。

しかし、私たちは、その言葉の行間にひそむそれぞれの思いに、心通わさなくてはならないと思います。病気の父に「天から与えられた寿命だけは、絶対に生き延びなくてはならない」と自らをさておいて心配する者、自分のふるさとに残した妻子のことを「くれぐれもよろしく願います」と母に託す者、思い残すことはないと書きながら、ふるさとを思い、父や母を思い、兄を思う。一人先に逝かざるを得ない、それぞれの苦しい思いが、胸に迫ります。

私たちは、忘れてはなりません。一人ひとりの死がどのようなものであったかを。その死を思わなくてはなりません。

今年、峠三吉の原爆詩集の表紙絵を描いた、故四国五郎さんの戦中詩が発見されました。彼は1944年に召集され、旧満州においてソ連軍と戦い、シベリヤ抑留を経験して、48年に帰国しました。その詩の一節です。

日本の若き兵士らの屍体  
しぼりたる洗濯物  
投げすてしごとく  
はてしなく路上に散らばう

うつろなる眼あけしまま

私たちは、戦争犠牲者の、それぞれの言葉に思いをはせながら、その言葉にあふれる、美しき心を感じ取りながら、しかし、その死を美化してはならないのだと思います。多くの兵士の遺骨は、家族の下には戻りませんでした。異国の地に無残にもうち捨てられた多くの人々の無念を、私たちは忘れてはならないのです。

7月31日から8月9日まで、私たちは、福島から広島、長崎と、原水禁世界大会を開催してきました。哲学者であった故・森滝市郎原水爆禁止日本国民会議議長は、「人間は生きねばならぬ」と言いました。憲法13条に規定される「命の尊厳」を、今日こそしっかりと考えなくてはなりません。沖縄の空に散った特攻隊員の、異国の曠野に倒れた兵士の、空襲で、原爆で焼かれた人々の、命の尊厳を、それは、いついかなる場所に置いても、いかなる人に対しても、護られなくてはなりません。この千鳥ヶ淵戦没者墓苑に眠る多くの皆さんとともに、そのことを問うていきたいと思ひます。

私の住む横須賀には、米海軍基地と海上自衛隊の基地があります。日米の多くの艦船が停泊しています。その艦船が積む機関銃、例えばイタリア製の54口径5インチ単相速射砲は、完全に自動化され、無人のまま、32キログラムの弾丸を、毎分40発、24キロメートル先まで運びます。驚異的な性能です。

がしかし、私たちは、その速射砲が何を標的にしているのか、その砲塔の先に、24キロ先に何があるのか、そしてそこで何が起きるのかを、真剣に考えなくてはなりません。戦後76年、いま、私たちには、日本社会には、その想像力が圧倒的に欠けているのだと思ひます。

知覧で食堂を経営し、「特攻の母」と呼ばれた鳥濱トメさんはこう述べています。

「隊員の多くは、戦争をしてはならない、平和な日本であるように、ということをしていました。そして、そのことをできるだけ多くの人々に伝えて欲しいとも、言っていたのです。みんないい人達でした。みんな極楽へ行く人たちでしたから、とてもやさしいんです」

戦後76周年あたり、戦争の惨禍に命を落とした方々の、まことの思いを受け止め、二度と戦争を繰り返さない、その決意を新たにして、平和フォーラムを代表しての、誓いの言葉とさせていただきます。最後に、戦争での、すべての犠牲者の方々に、心からの哀悼の意を表して終わります。

2021年8月15日  
フォーラム平和・人権・環境  
共同代表 藤本 泰成